

## 令和4年度保育所自己評価

### 1. コロナ対策と保育

コロナ感染予防の為、色々な配慮をするようになり三年目を迎えたR4年度。感染状況としては、保護者の感染があり、それに伴う子どもの欠席が多かった。職員や家族のコロナ感染もあり、職員の配置が難しい時期があった。みんなの協力体制のおかげで乗り切ることが出来た。

年度途中より国の対応策が変わり、自宅待機の日数が短くなったり、国からの抗原検査キット配布により、早目の復帰が出来るようになる。これらの動きを見ながら感染防止対策は気を緩めずに常に子ども達、職員の体調には充分気を付け、気になる症状があった時は早目に休むなどして防いでいった。

コロナ禍であっても日常の保育の質は落とさず、行事の期待感、意欲、楽しみは大事にし、日常の保育がより充実出来るように推進した。

**結果、行事の見直し(簡素化)をして、日常の保育のより充実化を図るきっかけとなった。**

#### ①行事について

- ・入園式… 昨年同様(時間短縮、人数制限の中で実施～新入園児及びその保護者・年長児出席)
- ・夏まつり… 平日に実施 全園児参加(保護者参加なし)  
内容) おみこしまわり、盆踊り、お店屋さんごっこなどを全園児で行い、  
夕方は親子ヨーヨー大会を実施  
年長・年中児は翌日の土曜日 保護者参加で実施  
内容) おみこしまわり、竹太鼓演奏、親子盆踊り  
※保護者参加も工夫して取り組み、参観及び親子のふれあいもあり良い思い出となったようだ。
- ・運動会… 以上児、未満児に分かれて行う。  
未満児は、平日夕方のお迎え時の時間を利用して、日頃の運動あそびを親子一緒に取り組んだり、各年齢に合わせた運動遊びやわらべうたをしたりする。  
以上児は午前中実施 保護者：年長2名・年中2名・年少1名参加で日頃の運動遊びを参観してもらい、子ども達の発達を見てもらった。
- ・のばらっこの会(発表会)… 以上児、未満児に分かれて行う。  
未満児はクラス別に夕方40分~60分程度実施。1・2歳児は劇遊びごっこを行ったりする。  
又、1日の「生活と遊び」をビデオで見てもらおう。保育参観ができなかったが、園での様子が見られ、保護者の理解にもつながり、とてもよかったと感想がよせられた。  
各クラス小単位で実施したので、親近感、充実感があった。(保護者1名参加)  
以上児は合同で発表。(保護者：年長2名、年中・年少1名参加)  
他クラスの様子や、他年齢の様子が見られ、感動したとの声が聞かれた。
- ・卒園式… 年長児・年中児参加 卒園児保護者2名出席

#### 配慮点・工夫

- ①行事については、子ども主体に工夫しながらも、例年通りに実施した。
- ②保護者参加についてはあらゆる面(参加者の人数制限、実施時間の短縮、会場の使い方等)で検討し、予防に努めた。
- ③実施当日の配慮… 問診票の記録・検温・マスク着用・手指の消毒等、充分に行なった。

#### ②日常保育についての配慮

- ・ 三密を出来るだけ避ける対策(特に送迎の仕方・食事中・午睡時間 年長児はホールを午睡室として利用)
- ・ クラス毎の保育、極力入り交じらないで小単位で動く。
- ・ 換気、オゾン機、殺菌消毒、手指の洗い、備品・玩具の消毒
- ・ 3歳以上児のマスク着用のすすめ
- ・ 室内の換気を時間を決めて実施する。

- ・発熱時の対応・・・37.5℃以上の発熱後は、解熱後 24 時間経過し、医師記入の意見書を持って登園してもらう。12 月より医療機関ひっ迫の為、意見書が同意書に変更

※一斉の保育参観はできなかったが、体育教室(3・4・5歳児)・絵画造形教室(4・5歳児)・もじ遊び活動(5歳児)の参観日を複数にして密にならないよう配慮し実施した。活動の様子が見られ、保護者の理解にもつながった。

### ③評価反省

- イ) 実施後、保護者から出た感想集を渡し、新しい行事の在り方の共有を図った。
- ロ) 各行事毎、コロナ感染防止に注意・配慮をして例年通り実施し、行事における園児の成長、喜びが見え、保護者と共に喜び合えた。
- ハ) コロナウイルス感染防止のため行事が縮小化され、保育者に時間的余裕が出て、日々の生活や遊び、活動をより充実することが出来た。又、保育者の働きやすさや定着につながり、求人活動にも良い影響が出てきた。
- ニ) 3歳未満児クラスは、クラス毎小単位で発達に合わせて行事内容を工夫した。クラス懇談も出来づらかったので、行事の時に顔合わせをし交流を図った。大半好評だった。

## 2. 保育の質の向上 (研修)

コロナ感染防止の為、リモート研修に切り替えることが多く、見逃し配信で1ヶ月程期間があるので、(土曜日や平日の空き時間を利用して参加) 同じテーマでみんなで視聴でき、パートの先生も含め、共通認識ができた。研修報告でお互いの学びの紙上研修をし、保育の質の向上につながっていった。

- ①公開保育・・・野ばらと第二の未満児及びユリックス分園、三園の合同公開研修を実施。  
(年2回) 前半での助言や課題を後半に公開保育を取り組むことにより、意識して保育を高めることにつながっていった。
- ②重点課題の討議・・・職員会議に重点課題コーナーを設け、発表し合うことにより、更に保育の視野と深みをつけ、ミッションを高め合うことが出来た。
- ③リモート研修
  - 1.これから求められる保育の質～それぞれの園で高めるために～ (東京大学名誉教授 汐見稔幸先生)
  - 2.環境を通じた教育を学ぶ～子どもとつくる保育と実践～ (鳴門教育大学附属幼稚園園長 佐々木晃先生)
  - 3.いま、絵本と物語の力を学ぶ～子どもの未来を支える保育者の役割～  
(ノートルダム清心女子大学 名誉教授 脇明子先生 講師 片平朋世先生)
  - 4.保育内容をどう展開するか～発達に沿った活動と教材～ (東洋大学教授 高山静子先生)
  - 5.いま乳児保育に求められるもの～育児担当制が育てるもの・育むもの～(帝塚山大学准教授 西村真実先生)
  - 6.人的環境としての保育者の専門性  
～プロセスの質向上に向けた子ども理解～ (九州産業大学准教授 田中沙織先生)
  - 7.子どもの権利を守る子どもの最善の利益とは  
人権擁護のためのセルフチェックリストの活用 (関西大学教授 山縣文治先生)

### ④キャリアアップ研修

野ばら：乳児4名 幼児教育2名 保護者支援2名  
マネジメント、障がい児保育、食育アレルギー対応、保健衛生・安全対策・・・各1名  
第二：幼児教育1名 保護者支援2名 保健衛生1名

### ⑤現場キャリア保育士による研修 ・手柴主任による新任自主勉強会

「うたと積木とおはなしと」の書籍に添って、野ばらと分園の新任の職員と毎月勉強会実施。

### ⑥講師による園内研修

- ・広渡先生・・・わらべうた指導 全園児対象
- ・立川先生・・・考える力を育む活動 年長児対象
- ・居関先生・・・安田式体育あそび指導 全園児対象
- ・岩城先生・・・全園児対象
- ・鴨下先生・・・支援児対象 保育所訪問(リハビリ発達支援ルームかもん)の鴨下先生による個人的指導は、かなり効果があり職員の学びにもつながった。

### 3. 園開放事業（すくすく野ばら会）…コロナ禍で取り組んでいなかったが、令和4年度から実施。

- ・地域の親子に園を開放して交流を図る。戸外遊び、室内遊び、わらべうた、育児相談、園内見学
- ・野ばら、第二：2ヶ月に1回 ユリックス分園：月2回実施。

### 4. 人材確保

- ①副主任を迎えることができ、以上児保育の充実、園全体の研修推進を図ることができた。（野ばら）
- ②3年度秋より、短時間保育士を追加採用ができ、待機児童の受入れや、支援児の充実を図ることができた。
- ③保育士1名採用・栄養士1名採用（令和4年4月）
- ④給食面で、新任栄養士が健康上、退職となった。
- ⑤処遇改善…4月に遡り職員へ支給、給与アップにつながった。チーム加算…全職員へ配分した。

### 5. ユリックス分園の保育推進

- ①月1回、市の文化スポーツ課及びユリックス職員と連携会議を開く（二園の園長・分園責任者参加）  
お互いの事業の確認・連絡・連携を図ることができ、共有でき、つつがなく進めることができた。
- ②保育園の存在がユリックスにとって良い存在になるように心掛けた。  
（笑顔で挨拶、七夕飾り、館内おみこしまわり、ミニ門松飾り、春の花、館内散歩など）
- ③保育内容としては、責任者を中心に充実した環境作りと保育の内容を心掛け、園児のはのびのび成長できた。
- ④園庭、ユリックス公園利用に気を付けた。特に事故がないように重々注意して保育した。

### 6. ICTの導入

- ①初歩段階の取り組みで、保護者の登降園の打刻とメールでの出欠連絡、緊急一斉メール配信等を実施。
- ②コロナ関係、他、緊急メールを流すと、保護者はしっかり受け止め、連携が図られ効果的だった。
- ③ICT活用研修等を受講した。今後良い形で業務省略となり職員等の余裕につながるよう推進していきたい。
- ④以上児クラスは日々の活動(ドキュメント)を発信し、好評だった。保育の見える化にもつながった。  
今後、日誌にも連動し、業務簡素化を工夫していきたい。

### 7. 安全に関して

- ①ICTの導入により、毎日の園児の出欠の確認がより確実となった。欠席の理由等を把握し、園児が安全  
健全に日々過ごせるように配慮・確認をしていった。
- ②園庭、園周辺の整備・安全確認・防犯カメラの設置…今後、もっと検討・充実させる。
- ③保育室及び園内フリースペースの安全確認  
安全チェックリストの活用 各職員、毎年、安全保育のチェックをする。

### 8. 設備・建物の増改築

- ①ユリックス分園にエアコンの増設を行った。
- ②野ばら第二保育園の増改築
  - イ) 医務室の改築（保育中の急病児の一時預かりが安心・安全になった）
  - ロ) 職員ミーティングルームの増築（職員同士の意思疎通、連絡、連携がより良くなった）
  - ハ) ホール前にアトリエールームを増築し、園児の作品及び、園生活の見える化を図る。
- ③野ばら保育園の以上児クラス前にテラス増築
  - ・園児の生活行動が便利になった。
  - ・お迎え時に保護者が各部屋の前まで行くことが出来、子どもの生活、活動がよく見えるようになり、好評。
  - ・外遊びが使いやすくなった。（園庭の出入り、時々休憩など）

## 9. 不適切な保育について学ぶ

テレビのニュースで連日不適切な保育があったことが大きく報じられ、1月に緊急セミナーが開かれたので、職員は全員、リモート研修を受ける。(1月緊急セミナー～「子どもの最善の利益」を守るために～)

- ・当園では丁寧な育児を合言葉に実施しており、子どもとの関わり方は「愛情をもって保育にあたり、肯定的な言葉かけを行っている」が、不適切な保育のことを他人事とはとらえず、大切な子どもの心の発達と命を預かっている事を心に刻んで保育する。
- ・又、毎年、人権セルフチェックリストを活用し、各職員自分の保育の振り返りを行っているが、来年度は年2回取り組んで、これからも子ども達一人ひとりを尊重して関わっていく。
- ・チームとしてお互いに注意し合い(園・個人)質を高めながらより良く機能させる。
- ・風通しの良い職場作り。積極的にコミュニケーションを図る。情報共有をする。働きやすい、働きがいのある職場にする。職員の心身の健康をどのように保っていくか具体的な取り組みを考えてみる。(まず出来ることかやってみる！)
- ・どういうことが不適切にあたるのか具体的に洗い出し、不適切な対応があった時の対応のルールを決め、共通理解して、お互いに注意し合う。
- ・苦情解決をしっかりと機能させる。
- ・「子どもの最善の利益」を守るために…保育士会倫理綱領をよく読み取る。

### 保育士会倫理綱領

すべての子どもは豊かで愛情のなかで心身ともに健やかに育てられ、自ら伸びていく無限の可能性を持っています。

私たちは子どもが現在を幸せに生活し、未来を生きる力を育てる。保育士の仕事に誇りと責任を持って、自らの人間性と専門性の向上に努め、一人ひとりの子どもを心から尊重し、次のことを行います。

- ・私たちは子どもの育ちを支えます。
- ・私たちは保護者の子育てを支えます。
- ・私たちは子どもと子育てにやさしい社会をつくります。

初心に戻り、これをしっかりと心にとめて保育しよう！